

# JRは労働条件を改善しろ! ③

## 千葉支社交渉

## 榎津編

### 久留里線の将来 展望を明らかに

久留里線を担当する木更津支区については、これまでも「電化」の話など様々なウワサが飛びかかった。とくに、現在持ち上がっている木更津駅橋上化の問題は、木更津支区の将来展望も含めて大きな問題となっているものの、未だに具体的な内容ははっきりしない中で全ての問題がストップしているという状況になっている。

この点について組合側から、橋上化の問題について自治体との程度話が進んでいるのか、実際に作業がスタートした場合中長期的作業になることも考えられることから木更津支区の作業体制や路線、設備等の充実をはかること、また、現在の業務体系等の考え方を求めた。

これに対して会社側からは、橋上化の問題については、話が消えたわけではないが、自治体との間でまだ具体的な話は進んでいない。会社としては、今後橋上化の実現に向けて自治体に対して話を強化する旨の回答が行なわれた。

また、業務量については、沿線住民の久留里線利用も考えたと列車運行数等については、現状を維持していくことが望ましいとの考え方が改めて示された。

### 冷房対策強化を

現在配置されているDC一四両のうち七両については保安度向上工事が行なわれたが、以前と異なり計器灯と戸閉ランプが連動しているため日中はほとんど戸閉ランプが見えないが、LED化につちはどのようになっているのかを質した。

また、三八形車両の冷房については、運転台と反対側の冷房装置からダクトで冷風を引き込むことから、客室内でほとんど冷気が取られてしまう関係で運転台には冷気が届かず、夏でも窓を開けたままで運転している実情だ。また、車内の水滴対策の関係もあつて冷房と扇風機を併用するようになっていたが、車掌とでは扱い方が違うことなどを指摘した。

これについて会社側は、戸閉ランプのLED化については、時期については明確にできないが、実施する方向であることが明らかにされた。

また、三八形車両の冷房については、今後強化することを検討していること、冷房の取扱については、冷房と扇風機を併用することで指導助役会議で確認しているとの回答が行なわれた。

### 下郡駅ホームを 延長しろ!

現在、三両(四両編成の場合)先頭二両だけで客扱いを行い、他の車両については閉めきり扱いとしている。このため、久留里駅では、ホーム延長が九八形あるにもかかわらず下りの場合先頭二両だけをホームに入れるという取り扱いが行なわれている、しかも、停止目標から二メートル先には上りホームに向かうための通路があり、停車時には駅員が乗客を止めている中で運転士は気を張りながらブレーキを扱いなど、人間が保安装置の役割を行なっている。

こうした取り扱いをしなければならぬそもその原因が、下郡駅のホーム延長が四六形しかないことから起こっていることから、同駅のホーム延長についてはことあるごとに改善を求めてきた。

これについて会社側からは、運行している列車長以上にしようという考えもあり予算化を上申しており、今後も声を大きく上げていきたいとの回答がおこなわれた。

### 要員の確保を!

一方、要員関係では、この間、運転士は千葉運転区から転換教育を行なって送り込み、検修関係では強制配転者を再配転するという状況で、DCの運転士、検修職の要員を養成するという体系は全くできておらず、もっ

## 第41回定期委員会に

## 結集しよう!

日時、6月18日(土)、千葉市民会館

ばら労働対策を優先した要員用となつている。こうした状況から、木更津支区の将来展望はつきりさせ、運転士・検修職の確保を行なうようにも求めた。

会社側は、転換教育を行なうて木更津に転勤を希望する運転士はすでにいないと認識していること、今後も面談で希望者把握するとの回答を行なうのであった。

組合側からは、改めて強制配転者の復帰、要員体制について優先的に対策をたてることを要求した。

この他に、馬来田、上総清川東清川の停止目標については営業と調整すること、下郡踏切についてはミラー等を設置すること、亀山駅乗務員宿泊所の洗面所の設置、木更津乗務員宿泊所の防音対策の強化などについて早急に改善するように求めてきた。